

立命館大学 映像学部 卒業制作『凧の唄』

撮影時における新型コロナウイルス対策マニュアル

『凧の唄』 衛生班

衛生担当: 『凧の唄』現場制作担当

衛生責任者: 西山 こうき

以下に該当するスタッフ・キャストは、原則として撮影に参加・出演できません

- 発熱・咳・下痢・味覚や嗅覚異常などの症状がある者
- 新型コロナウイルス感染症の陽性と判明した者との濃厚接触がある者
- 同居家族や身近な知人の感染が疑われる者
- 過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国・地域等への渡航並びに当該国・地域の在住者との濃厚接触がある者

コロナ感染対策の3大原則

1★ マスク着用の徹底とソーシャルディスタンスの確保

作業中は、常にマスクを着用する。その際、マスクは鼻までしっかりと覆い、鼻を出した状態で着用しないよう注意して下さい。マスク着用下でも他者との距離を 1~2 メートル確保する。特に、飲食時、喫煙時等、マスクを外す場面では他者との距離を十分に取り(2メートル以上)、会話を控える。

尚、マスクは特段の理由がない限り、不織布マスクの使用を強く推奨する。

2★ 手洗いの徹底

こまめな手洗いを励行する。手が洗えない環境では、手指のアルコール消毒を徹底する。効果の高さでは、手洗い>アルコール消毒

3★ 換気の徹底

こまめな換気を徹底する。換気の際は、空気が一方向に流れるように意識する。

これらは、日常生活においても、有効な感染症対策となります。

撮影現場にウイルスを持ち込まないよう、普段の生活でも心掛けて下さい。

重要事項

■スタッフ・キャストは、撮影日だけでなく、毎日検温し Web フォームにて送信して下さい。



<https://forms.gle/6hNZR3TT1tTQfzQM8>

毎朝、検温して上記のフォームにて送信して下さい。

■それぞれ自己での体調確認をお願いします。37.5° C 以上の発熱がある場合、または倦怠感・咳など体調不良、味覚嗅覚異常を感じた場合は、直ちに制作部または衛生責任者：西山に連絡し、自宅または宿泊場所で待機して下さい。本人に加え、家族や同居者も同様に体調の確認をし、異常があれば申告して下さい。

■可能なら各自、体温計を携帯して下さい。体温計は必ず個人での使用のみとし、人との貸し借りは絶対にしないで下さい。朝の検温は自宅または宿泊場所を出る前に行って下さい。

■撮影中に発熱、強い倦怠感など体調不良を感じた場合も、制作部、または衛生責任者：西山に報告をして下さい。本人は現場を離れ、公共交通機関を使わずに帰宅するか適切な医療機関を受診して下さい。時間等により当日受診できない場合も、翌日受診をし、その結果を衛生担当に報告して下さい。

■各部技師、チーフは、当該者のフォローをするとともに、必要な場合は、代わりの要員確保をお願いします。

■撮影中止等の決定がある場合は、衛生責任者である西山こうきから指示いたします。

撮影の各プロセスにおけるコロナ対策

★撮影全体の対策

- 現場に入る際、必ず検温の確認を受ける。
(=フォーマットを確認し、検温してきていない人はその場で検温します。)
- ロケ地を連続で使用する場合は衛生班が毎日定期的に消毒と換気を行う。
- 技術周りの機材消毒は、技術チームが行う。
- 持ち道具、小道具類や器具など出演者が触れるもので、消毒できない際は、出演者およびスタッフの手洗いまたは手指の消毒を徹底するよう努める。
- スタジオや各支度場に、適度なソーシャルディスタンス・消毒などを呼びかけ、注意喚起をする。特にこまめな手洗い・消毒、マスク着用の徹底を周知する。

★車両・移動中について

- 乗車前にご自身で体調確認し、体調不良を感じる場合は乗車しないことを徹底する。
- 各車両には手指用の消毒液を常備し、乗車ごとに消毒する。
- 乗車時には必ずマスクを着用する。
- 車内での会話は必要最小限とする。マスクを外している際の会話は厳禁とする。
- 飲み物のごみ等は車内に放置せず、袋に入れて現場のごみ箱に捨てる。
- 乗車員は出来る限り換気に心掛ける。

★撮影現場について

- 撮影場所の入り口や現場近くに、消毒液・マスク等の専用ごみ箱を設置する。
- 現場内の人数（キャスト＋スタッフ）がなるべく40人以下になるように、必要最小限のスタッフで対応する。
- 室内ロケ地の扉は本番時以外、なるべく開放し、換気する。
- 室内ロケ地のドアノブ等はロケ地の許可が下りている場合、衛生班が都度消毒する。
- 現場に入る前に手指の消毒を呼びかけ、手指消毒用のアルコールを各現場に設置する。
- 室内ロケ地での撮影では常に換気を意識し、空気を入れ替えるタイミングを設ける。衛生班が積極的にそのタイミングを連絡する。
- 室内ロケ地・スタジオセット内はCO2濃度が上がりやすいので、なるべく開口部を開け、サーキュレーター、扇風機を適時使用するなど換気に心がける。
- マスクをしていない食事中的会話は厳禁。また、他者との距離を十分に取る。
- お茶場は設けないものとする。制作部がペットボトルの飲料を用意する。
- 一度口をつけた飲料物は放置せずに各自のバックなどに入れ、机の上・椅子などに置かないようにする。ペットボトルのフタに名前や目印を付けるなど、他者のものと混同しないよう管理する。
- スタッフは必ずマスクを着用し、出演者に近づくスタッフは会話を最低限に控える。
- 出演者はテストまでは原則、マスクあるいはマウスシールドを着用する。

★撮影現場の流れについて

○劇中がマスク無し設定の場合

演技テスト（マスク無し）→各カットにおけるテスト（マスクあり）
→各カットにおける本テスト（マスク無し）＜PBの際にはRec（録音・録画）の可能性あり＞→本番（マスク無し）

※現場の進行状況によっては、テスト・本テストが無くなる可能性もございます。ご了承ください。

★支度場所について

- 支度場には、消毒液・マスク・手袋・汚染物専用ごみ箱を衛生班が用意する。
- 支度場所は、密にならないようにスペースが確保できる場所を選んで設置する。
- メイクする場合、他の出演者との間隔を1~2メートル離して行う。
- 着替え場所には、なるべく複数の出演者を入れて着替えを行わない。もし複数になる場合も間隔を空けて適切なスペースを確保するように努める。
- 電気・エアコンなどのスイッチ操作はなるべく担当者を決めて、触れる人数を少なくし、折を見て衛生班が消毒する。
- テーブル・椅子等も衛生班が時間を見て消毒する。
- 窓やドアは定期的にかけて換気をする。

★エキストラについて

- エキストラは参加日に検温し、必ず Web フォームにて送信することとする。
- スタッフが大声で呼びかける場合は拡声器やマイクを使用する。拡声器は、使用の都度に衛生班が消毒する。拡声器はなるべく使いまわしを避ける。
- マスクの持参・着用を義務づけ、テスト中も着用し、本番のみ外すようにする。
- 飲料は、制作部がペットボトルの飲料を用意し、エキストラ各自での管理を徹底させる。

新型コロナウイルス感染対策担当者と報告レポートライン

発熱者、体調不良者、(同居人の情報も同様)が発生した場合、以下のレポートラインにて報告する。

各部責任者 → 衛生担当(制作部) → 西山こうき(衛生責任者)

体調に少しでも異変を感じたら、責任感より休む勇気を!

少しでも異変を感じたら、どれだけ重要なシーンの撮影が、責任のある仕事が待っていたとしても、
必ず「衛生担当」に報告して下さい。

報告する勇気を持つことが、その後の作品を守ることになり、周囲のスタッフの安全を確保します。
ウイルスに感染したことは悪いことではなく、恥ずかしいことでもありません。
キャスト・スタッフ一同、皆互いに支えながら作品制作に当たって行ければと思います。

マニュアルに関する疑問点やフェイスガードなどの物品等、また少しでも不調や困りごと等、何かありましたら衛生班、衛生責任者までお問い合わせ下さい。

- 国や地方自治体の指針が新たに発令された場合は、新たな対策をとるべく、このマニュアルは適時変更されるものとします。
- 本制作は立命館大学が定める「新型コロナウイルス感染症に対する立命館大学の行動指針(BCP)」
新型コロナウイルス感染症に対する立命館大学の行動指針(BCP)
リンク先: <http://www.ritsumei.ac.jp/file.jsp?id=459352&if=.pdf>
と立命館大学映像学部 07 制作ゼミが設ける「映像文化演習 7 クラスにおける正課による作品制作時 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)感染予防対策ガイドライン」(BCP レベルによって映像制作の活動が制限される旨をまとめたもの)にもとづき行動します。